

佐治中学校校歌

作詞 小谷行男
作曲 堀内敬三

一、見よ、百千代の昔より
秀峰巖たる 飯盛を
仰ぎてつどう数百の
若き生命のかざしたる
象徴は清き柏なれ

二、見よ、はてしなき人生の
学びの海は深けれど
情熱もゆる若人は
峻嶺やどす佐治川の
ほとりに強く咲きいでん

三、見よ、瑞光のみなぎりて
友愛の花咲く園は
温情満ちてゆたかなり
月去り星は移るとも
ながく心にとどまらん

S46 年度の出来事

学校行事	4/2 始業式 4/5 入学式、5/7 校内陸上競技会(於第1小)、5/11 2年生山王滝遠足、5/13~15 農繁休業、5/17 文部省指定道徳教育研究校(46, 47年度) 6/2 2年生大山登山、7/3 村営プール完成、7/4PTA 奉仕作業、7/23~8/27 夏季休業、8/31 大雨で旧校舎トタン剥がれ雨漏、10/4 1, 2年引原ダム遠足、11/3 村民体育大会参加、12/26~1/9 冬季休業、2/18 流感のため2年A組学級閉鎖、3/17 卒業式 3/24 修了式
出来事	【日本】1/24 グアム島で元日本陸軍兵士・横井庄一発見、2/3 札幌オリンピック開催、2/19 あさま山荘事件発生、3/15 山陽新幹線開通、5/14 大久保清事件、7/1 公害問題深刻化(環境庁発足)、7/17 江夏のオールスター9連続奪三振、1/24 グアム島で元日本陸軍兵士・横井庄一発見、2/3 札幌オリンピック開催、2/19 あさま山荘事件発生、3/15 山陽新幹線開通 【世界】8/16 ニクソン米大統領ドル防衛緊急対策(ニクソン・ショック/ドル・ショック)
流行	【ヒット曲】わたしの城下町、知床旅情、また逢う日まで、傷だらけの人生、ナオミの夢、よこはまたそがれ、花嫁、17才、さらば恋人、小さな恋のメロディ、走れコタロー【言葉】脱サラ、シラケ、ピース、ヘンシーン、これでいいのだ、ガンバラナクッチャ、古い奴だと思いでしょうが、ロマンポルノ【テレビ】おれは男だ、仮面ライダー、ルパン三世、コートにかける青春【本】二十歳の原点(高野悦子)【モノ・人】T シャツとジーパンが爆発的流行、ホットパンツ流行、スマイルバッジ大流行
初登場	日清食品「カップヌードル」発売(※製品化された世界初のカップ麺) 9/1 森永製菓「小枝チョコレート」発売、東京・銀座三越に「マクドナルド」第1号店オープン 7/20、「新婚さんいらっしゃい!」放送開始、「仮面ライダーシリーズ」放送開始
この年の物価	米価 60 kg 8,482 円 ガソリン 1L57.3 円 コーヒー1杯 106 円 入浴料 39 円 理髪料 644 円 うどん・そば 100 円 あんぱん 1 個 30 円 牛肉ロース 100g148 円 豚肉 100g112 円 鶏肉上 100g73 円 30 銭 バナナ (1kg) 165 円

「山峡の子」第二十一号

目次

佐治中学校校歌	一
目次	一
巻頭言	二
一年生作品	四
俳句	四
詩	六
作文	二
二年生作品	三
俳句	〇
詩	三
作文	一
三年生作品	四
俳句	二
詩	五
作文	五
編集後記	七

「山峡の子」第二十一号発刊によせて

校長 大下 健 一

「山峡の子」第二十一号が発刊される頃となりました。

毎年この頃になると私は「山峡の子」の集録を読みかえして見ます。

二十冊にもなるのですから一千名を超える先輩諸君の作品を全部読んで見るまではゆきませんが、一年に一度きりしか出ない「山峡の子」であるだけにどの作品を読みかえして見ても当時の生徒諸君の生き生きとした気迫がみなぎっているように思います。

私はふだん生徒諸君と話しあう機会が少ないので、こうして「山峡の子」の作文や詩を読んで見て、「なるほどこんなことを考えているんだなあ」と感銘をうけることがしばしばあります。

「文は人なり」といわれますがたしかにそのとおりで、作品の中にはその人の「ものの見方」

「感じ方」「考え方」がそのままに現われているように思います。それなればこそ読んで感心させられるのですが、自分の見聞きし、感じ考えたことが素直に詩や作文に表現できることはすばらしいことだなあと思います。そしてそれは誰にでもできることです。ただやはり日頃から人の話をまじめに聞いたり、本を読んだり、考えたり、或は自分で書いて見たりする習慣をつけておくことが、比較的自分の気持ちに抵抗なく原稿用紙にむかってペンをとることができるようになるのではないでしょうか。宿題があるとか、試験の準備で寝る時間も惜しいとか、クラブ活動も時間が足りないとかいろいろの障害はあるにしても、いやそうであるだけに私たちはものを感じ考え、自らの心の動きをペンに託してみること大切なことだと思ふのです。「山峡の子」に名を連ねた人々はそうした機会をうまくつかんだ人たちです。これを契機として本に親しみ原稿用紙に親しむことができたらどんなにすばらしいことでしょう。「山峡の子」第二十一号の発刊がそうした気持を持つ人が一人でも多くできるきっかけとなるならこの上ないよろこばしいことだと思います。そして第二十一号の「山峡の子」を編集した文化委員の人々の労苦もむくわれるものだと思います。

二年生作品

俳句の部

初雪をまだかまだかとまつ私
風鈴にかなしくあたる冬の風
古池や水をたたえていくとしか
冬空に一つ二つと流れ星
まっ白な雪についたは足の跡
雪降りてわたばしかぶる尾際ダム
節分や鬼もいっしょに豆ひろい
春風やなぜにあなたはわれにこん
暖冬にはしゃいで遊ぶ山峡の子
庭先に清くさきつつきくの花
暖かき水の流れに心すむ
杉の子も下を向いてぞ春をまつ
冬空にえさをさがして寒雀
サッポロの空に輝く五輪の輪
雨の中びしょりぬれてる小犬かな
いきふけばしろくまいたつ冬の朝
かやぶきの屋根につもるは白い雪
冬空に小さく光る金の星

藤原牧美

”

中谷幸隆

北尾泰志

”

上田広行

”

上紙 誠

奥田雅史

中谷裕見恵

”

山本幸一

”

岡村信子

”

小谷龍夫

西村智昭

”

外に出てひやと感ずるこの寒さ

ふきのとう雪をかぶって春を待つ

じょ夜のかね雪ふる音に消えて行く

うめの花ほころびはじめうちの庭

春の雪ちらりちらりと桜かな

つくしの子春をそこにと頭だす

春をまつ小鳥に木々につめたい雪

佐治川の清き流れに雪が降る

しら鳥がなにかほしげにないている

冬空に見上げて思うとおい国

雪がふる山がおおわれきれいだな

春くれば雪なつかしがり冬思う

春くればかおりぶんぶんふきのとう

冬ごもり春を待つてるかえるかな

冬来ても雪積もらない今年の冬

雪の上寒さにたえるさくらの木

金色に庭をそめてる福寿草

うら山に初雪ふるや白銀に

こよいにも冬の日ぐれや春が来る

前にわにきれいにさいたうめの花

夕ぐれにはのかなあかり家ののき

三学期スポーツ勉強がんばろう

徳山隆則

小谷美紀枝

”

西村礼子

井上珠美

竹本洋実

光浪あけみ

下田儀明

光浪信雄

田中千枝

岡村 浩

山木 節

田中好喜

下田千秋

下田政雄

岡村美千世

中谷雅枝

刈田厚子

前田寿恵子

井上雪枝

沢田潤子

田中幸子

冬のそらやみ夜に光る北斗星

雪降らずうれしく芽を出す青き草

春くればうぐいすさそうめの花

青竹やかぜにさそわれささの音

白い雲空いっぱいに流れてる

春風に吹かれて揺れる桜かな

岡村仁美

小谷広子

中村正樹

平尾俊行

小谷三千歳

下田浩二

詩の部

旅立ち

旅に出よう

朝が来た

朝の来たことのない

山の向こうに

アズキ色の朝が来たら

列車に飛び乗って

旅に出よう

あるときは

原始林の奥深く

あるときは

朝焼けの海に

春を求めて

旅に出よう

限りのない青春の旅に

ユータンのない

青春の旅に

二A 上田 広行



2A 上田真佐子

幸餅の餅さきすはア
泉のほとりこ生音するといふ

モリ林園

泉のほとりに生育するという
幸福の樹をたずねて

小鳥

二A 田中千枝



私は小鳥
自由に走りまわる
小さな羽を持った
黄色の小鳥
病院の窓から顔を出して
私のように元気に空を飛びまわってね
と、呼びかけてまわる
みえない小鳥
太陽がしずむころになると
広い巣箱へ帰る
夕やけが私の羽をつつみ
炎のように変える
だれも私のすがたが見えない
静かな一日

あり

二A 井上珠美

ありが一匹
わたしの前を
いそがしそうにはっていく
なにか白いような物を
背中いっぱいにして
いかにも重そうにはっていく
いきなり踏みつぶそうとした
わたしは「ハッ」と思い
足を止めた
このありだって
かわいい かわいい子どもが
待っているのだろう
踏みつぶしてしまっは
親の帰りを持っていた子どもたちは
きつと きつと
悲しむだろう
わたしはそつと足をおろして
ありの行く先を見とどけた

ラジオ

二A 北尾泰志

ラジオの中をのぞいてみる
大きな部品 小さな部品が
助け合い
さも楽しそうに並んでいる
あるものは音を出し
またあるものは 電気を通す
その一つ一つが役目を持ち
その責任をりっぱにはたしている
ラジオは言う
「人間は、なんてみにくいものだろう」と……
ぼくは、おこって
「おまえらは、みんな人間が作ったものじゃないか」
といいかえす
しかし、ラジオの言ったことのほうが正しいと思う
そして、またぼくは言った
「よし、おまえらと競争だ
どちらが、りっぱに責任をはたすか」と……

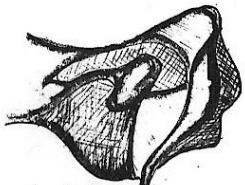
夢

二A 上田純子

いつのことだったろう
大きな 大きな夢を 見たことがある
自分で作った イカダに乗って
地球の裏側を回って
日本へ帰って来た夢を
みんなに出むかえられ
花束をもらった
一しゅんの 幸福であった

いつのころだったろう
大きな 大きな夢を 見たことがある
世界で最初の 女性飛行士として
月への旅へ出ていった夢を
長い日旅行から 帰って
みんなに しゅくふくされた
一しゅんの幸福であった

夢なんて はかないもの



2A 上田純子

チビッコ

二B 田中幸子

チビッコが
どろんこになって遊んでる
どんなにあとおこられようが
そんなことはかまわずに
いっしんに遊んでる
あとでどんなにおこられようが
そんなことは考えないで
そんなチビッコを見ると
私もそのころに
帰りたくなるような
そんなことおもわせる
チビッコ
むじゃきなチビッコ



時計

二A 西村礼子

時計のいろいろな種類
やすまずに働いてくれる時計

私は音が大きすぎだ
せいかくに時を刻む時計
便利な時計

時計がなかったらどうするだろう
昔のようになるだろう
昔の人も苦労している
遊んでいても時計がないと不便だ
ねじがゆるむととまる
またねじをまくと
せいかくに進んで行く

わたしの机

二B 奥田順子

つくえの上をなぞてみると、
らくがきのあとがのこっている
小学生の時の
マジックのあとが残っている
うれしい時も
かなしい時も
ずっといっしょだった
わたしの机

雨

二B 西尾敏之

シトシトと
しきりに降り続く雨
ぼくの額にあたって
ピチャとくだける
木も草も
屋根もかきねも
みんなぬらしてしまふ
いやなことを
全部洗い落としてくれ
ぼくは雨にあたって
ずぶぬれだ



風鈴

二A 上田真佐子

リリン
リリン
と鳴る風鈴

晴れてる日に
リリン
くもりの日に
リリンリリン
雨の日に
リリンリリン
いつも踊るように鳴っている

私は毎日のように音を聞く
風鈴の音は
私の心をみがいてくれる
悲しいときにはなぐさめて
楽しい時にはそれ以上に楽しく

どこへ行っても風鈴の音が聞こえる
歩いても
考えても
聞こえない時などない

私の心はいつものように
風鈴が鳴っている

夜

二A 上紙 誠

あい色に そまった空
まっ黒な 木の影が
夜空の星を

ぬすみとるように 枝をのばし

ザワザワと風に そよぐ時

あい色に

そまった空は 暗く静まりかえった

地上をあおいで

かなしみの涙 とも言うべき

雨をふらしはじめた

えんぴつ



2A 光表信雄

二B 小谷 広子

えんぴつ

えんぴつ

ふしぎなえんぴつ

どんなことでも

祖母

二A 岡村 信子

わたしの祖母

だれにでもやさしい祖母

よく働く元気な祖母

祖父が死んだ時

ひとり棺の前で泣いていた

きらきら光る涙

目を赤くして泣いていた

かわいそうだった

でも、くよくよしないで

私達がいるから

いつまでも

いつまでも

長生きしてね

夜空

二B 小谷 三千歳

まっ暗な空

すらすらと書いて くれるえんぴつ

いろいろな思い出も

えんぴつが かいてくれる

ふしぎなえんぴつ

こんなえんぴつが

私は 大きい

夕焼け

二B 下田 智明

西の空が燃えている

真赤だ

火のような夕焼け

夕焼けのために雲が燃えている

西の空だけではない

東の空にも伝わって

雲が赤くそまっている

その明るさは まぶしいようだ

十分、二十分

明るさは、いまだにおとろえをみせないこの明るさは

雲が燃えつきるまで続くだろう

夕焼けは、晴れの日の宝物だ

静かな空

さびしそうな空

ぼくは

そんな空が大好きだ

そのまっ暗な空に

星がぼつりぼつりと

輝やいている

その夜空を見ていると

さびしさも 悲しさも

飛んで行ってしまいうさだ

とけい

二B 田中 貴美子

私たちが、遊んでいる時も

私たちが、ねている時も

いつもコチコチと働いているとけい

私たちに時刻を おしえてくれる

働きをやめると ぜんまいをまく

するとまたコチコチと働き出す

私たちが 遊んでいる時も

私たちが、ねている時も



36 田中貴美子

ぼくの好きなもの

二B 谷口秀範

ぼくは音楽の中に自分をおくのが好き
どことなく、悲しい曲の中に
だけど こんな曲はだめ
ぼくは、寂しさの谷から出ようと
音楽の中に自分をおくのだから
けれど寂しい曲の中が好き

ぼくは本の中に自分をおくのが好き
悲しい物語の中に
淋しい詩の中に
だけどこんな本はだめ
ぼくは、淋しさの林から
ぼくは、悲しみの海から出るため
本の中に自分をおくのだから
でも悲しい本の中が好き
ぼくは晴れた春の朝が好き
ぼくは晴れた夏の夜明けが好き

詩

二A 奥田雅史



詩を読む
情景を浮かべながら
詩を読む
ただひとり
せまいへやの中で詩を読む
詩は僕に語る
詩の悲しみ、詩の喜びを
僕に語りかける
そして僕の悲しみも
聞いてくれる
そして、まるで
すみきった青空のような
心してくれる

煙

二B 遠藤長美

煙は、もくもくと
あたり一面に広がり

ぼくは晴れた秋の夜が好き
ぼくは晴れた冬の昼さがりが好き
ぼくは九月のきりが好き
ぼくは十二月の雨が好き

でも一番ぼくが好きなのは独りぼっち
だけど孤独はきらい

友情

二A 中谷裕見恵

いったい友情って何だろう
小さなものかな
大きなものかな
重いもの？
軽いもの？
どんな味
友情は美しいっていうけど
ほんとかしら
友情の味
かみしめてみたいな
友情の味
友情の味を



悪魔のように
まわりの自然をつぎつぎと
おそっていく
最後には私までが
煙にまかれていくような
感じがする

おもい出

二B 福田康子

旅の思い出を
そっとあつめてみると
いろいろな匂いと音楽と味覚が
私の胸にあふれてこぼれそうだ
この思い出を
だれかに、わけてあげたい
だから早く私のところにきて
この潮風と匂いの南国の音楽と
パインナップルの味を
こぼれないように
あなたも：：あなたも
いっしょに すくってください

春のおとづれ

二B 竹村 裕子

雪どけの水は
つめたく激しい
やわらかい日ざしに
絶叫し
川となって突進する
岩にぶつかり
「ドッ」と
白いしぶきをふきちらす
まさに弱肉強食の世界
水と水の
分子と分子の戦い
いつか流れつく
海までの戦い
それは
はてしなくつづく
はてしなく はてしなく
春の足音をつかむまで

マドの外

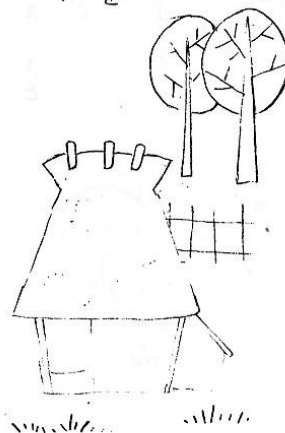
二A 藤原 牧美

ガラガラと
まどをあけた
キラッと何か光った
私の目に
つきささるはりのように
細くするどい光
まぶしい純白の光
ダイヤモンドのように美しい光
少しでも
みかたをかえると
もう見えなくなってしまう
そこには
もう前のような美しいすがたはみえず
あとに
小さなガラスのかけらが
ぼつんと
たった一つおちている

雪

二A 光 浪 信 雄

雪が降る
佐治の山に
しんしんとしずかに
おもくおもく山を
びちゃびちゃ道を
おしつけて
あの美しさは
純白です
なんとすばらしいのでしょうか
なめてみたい
たべてみたい
からだ中に雪を
まぶりつけ
あの雪の冷たさを
からだで感じたい



やさしい天使

二B 西 尾 佐 恵 子

病室のきくの花が
さびしそうにしおれた
その時
一瞬気がとおくなつた
いつも、あの空で
星と共にかがやいている
夜、勉強していると
ふと、空を見る
宝石のように
かがやいている星
その星がおじさんなんだ
目をこすりながら見ていると
「がんばれよ」とはげましてくれる
私も心の中で
「うん」という
秋には、きくの花を
かざってあげたい



2A 岡村 佳子

平和はいつくるか

二B 岡村 美千世

この世は、まさに交通戦争だと思います。歩いている人、自動車を運転している人の死がいつおそってくるとも知らず、日に日にふえていく死亡者、日本はこのままでいいのでしょうか。

これは聞いたのですが、ある人Aが夜酒を飲み、自動車で帰る途中前をよく見ていなかったため、衝突事故をおこしてしまいました。相手の方の車はめちゃくちゃ、乗っていた人は死亡、もちろんAの車もめちゃめちゃそれにAは傷をおってしまいました。Aが助かったのはいいけど、相手の人の方の家族は今まで家の柱となっていた人が死んでしまい、生活は苦しくなり不幸のどん底につきおとされました。また心にも大きなショックをあたえたことでしよう。Aの家族も保償金を払いこれも生活が苦しくなりました。交通事故とはその人が傷つくだけではなく、相手も相手の家族も、自分の家族も不幸にする悪魔です。Aは『どうしてあの時酒を飲んで運転したんだろう。あんなことさえしなかったら、自分も相手も

何もないまますんだだろうに』と後悔しただろうと思います。でも後からの後悔は何もなりません。それなら、なぜ初めから自分で注意しなかったのでしょうか。『自分は事故に会わない』なんて思っている人も、ちょっとした不注意で心身ともに、前のような明るさを失いダメな人になっていくと思います。つまり自分で自分の不幸を呼んだわけです。

又、子供の事故も大変こわいものです。止まっている自動車の前・後でいつ車が動くとも知らず遊んでいるのです。だけど小さい子供の場合には、正、不正の判断がつかないから周囲の人がいつも注意して見てあげないとどんなことになるかわかりません。交通事故にはたくさん種類がありますが、どれも小さなあやまちです。

戦争とは、ベトナムなんかでやっているのだけではありません。日本にもあるのです。あの恐ろしい交通戦争が苦しみもだえ死んでいく人がこの世に何人もいるのに人間なんてほんとうに自分のことしか考えない、きたないものです。私も自分に腹がたってなりません。

平和はいつくるかだれも知りません。けれど自分でいっつも気を配り、また人のことも見てやれる人、そんな人がふえていけば、平和もみんなの手の届くような所にひそんでいるでしょう。

ジュニア・リーダー

研修会に参加して

二B 中谷 雅枝

三十六日間という長い休みを、いかに有意義に過ごすか、ということが、あすの自分を、未来の自分を育てるための一つの勉強といえるでしょう。私は、この夏休みに、また一まわり大きく成長した。なかでも特に印象的なのはジュニア・リーダー研修会に参加したことだ。

夏休みになる前から、とても楽しみにしていた研修会も当日会場につくと少し不安になりました。純子さん以外は、だれ一人として知っている人がいないからです。

班編成が終わると、班員が集まって驚いたことに、青年団の副団長さんをやっているらしい班長さん以外は皆、中学二年生でした。だから私は、みんなの組のようすとか、学習とか、クラブ活動など、共通点も多いことだし、すぐ仲良しになれるな、と思いました。予想したとおり、すぐみんな仲良くなり安心した。

午後、二番目の学習は、講義で、「リーダーの役割」と心構えについてです。この講義で最も強くやきついていて、役割は集団の議題を遂行し、集団をよりよく維持するということです。そしてよいリーダーとな

るためには、まず、誠実一すじに生きる態度がたいせつだ。汗を吹きながらの先生の熱演ぶりには、びっくりしてしまいました。

次は、実技指導でした。私は二班でしたから、はじめはソングでした。字ぬきの歌や、指や耳鼻を使った遊びを加えた歌など、十数個の歌を教わりました。

その後は、軽スポーツの時間です。簡単なスポーツですが、個人戦のと団体戦のとやりました。

夕食の後、映画を見ました。「子ども会」という題です。小さな子供たちを、正しく導びいてゆき、最後にはジュニア・リーダーとなる青年の姿が最も印象的でした。次は、宇宙探検でした。その後は、就寝でした。

みんなが床につくと話がはずんで、おそくまで話してんだ。この三日間の間で、一番楽しかったのは、この時間です。おかしを食べながら、みんなの経験とか、お友達のことやクラブのことに話しはつきなかった。

ホームシックにかかっていた私も、これで家のことなんか忘れちゃいました。

翌日、まぶたが仲良くして、洗面がおくれてしまった。これも、きのうの話が、はずみすぎたせいだ。

朝食をすませると、スライドと話し合いの時間です。頭がいたいのを、がまんして一生懸命見ました。話し

合いの時間の石田さんの発言は、たいへんりっぱでした。そのお話は「私は、子ども会の副会長をしています。私は、勉強より、子ども会の仕事に行きます。」

こんな方もいるのか、私も石田さんまではいかなくても、少しでも、子ども会のためにこの研修をいかして、石田さんを目標に頑張ってゆきたいと思った。

次は実技指導三時間めの、ゲームです。ポプラの木の下に集まり、失敗をかさねたり、勝敗のゲームで勝ったりすると、大きな声で笑いあいました。

その後、実践発表があり、淀江のおおぞら子ども会会長の湯浅君が発表してくれました。六年生の彼は、育成会の安江先生といっしょに、内容も態度もしっかりした発表をやってくれました。

午後、班別討議があり、私は、二つの問題をなげかけました。すると、班の方がみんな自分のことのように、考えてくれ、よい答えが出ました。私は、二つもうれしいうことがあったので、次の講義へむかう足どりが軽かった。「レクリエーション指導のあり方」ユーモアたっぷり、歌、ゲームをふくめて、楽しい講義でした。

水泳と夕食のあと、北条のポップの会の方々がみえられ、影絵も上手でしたが、歌やゲームや手品もみんなの心

をすっかり奪っていました。青年団の方の活躍が、子どもたちを、すこやかに育てていく姿が、暗い部屋の中で炎が赤く燃えてるみたいでした。

夜、研修生の中でも、年上の方の考えで、お別れパーティーをやりました。男子と女子とが交替で輪になり、歌や出し物で笑いがいっぱいでした。

その後、床につき、またまたお話に夢中になった。特に将来のことや悩みごとについてでした。

とうとう三日目の朝をむかえました。

一番はじめは、ソングでした。小林先生の用意された歌集をみながら、最後の歌を歌いました。

そのあと、班別討議があり、子ども会の部として参加しました。たくさんの子どもの会の状況など、たいへん参考になりました。しかし、みんなとの別れが近づくと、みんなの声もさびしく聞こえ、ただ残念な気持ちだけでした。

午後、フォークダンスをやり、また、お友達がふえちゃいました。

ダンスも終わり、へやのそうじにかけると、はじめてみんなの顔を見合い、自己紹介をした時の姿を思い出す。「手紙を出そうね、しっかりと頑張ろうね」おっしゃる班長さんの顔も、さびしそうでした。

共に生かそうグループと自分

二A 上田 純子

私は、今日ここで、グループのあり方とその利用の仕方について述べてみたいと思います。

グループと一口に言っても、それはいろいろあります。気の合う者どうしが集まってできた、趣味、サークル、社会奉仕グループ、小学校または中学一年の時から同級グループ、仲良しグループなどがあります。もっと、くわしくあげればピンからキリまでいろいろなグループがあります。しかし、みなさん、問題はただグループがあるだけでは何の役にもたないということです。そのグループをいかに利用し、自分のものにしていくことが必要です。それがうまくできる人は、どんなグループにいても楽しくすごせるのではないのでしょうか。

そこで、グループによるプラス点、マイナス点はどんな所にあるでしょう。

まずプラスになる点は、グループのメンバーの長所を自分のものにできることです。私はある日、本で、「笑顔をたやさない人は性格も明るい」ということを知りました。そこで佐治中という大きなグループの中でそんな

閉会式のあと修了証をいただくと、三日間の研修をすませたんだな、とやっと実感がわいた。その後、みんな握手した。班長さんが「中谷さんすっかり頑張ってたね」と力いっぱい手をにぎってくれと、もう少しで涙が出そうでした。大人の仲間とも、三日間の生活を思い出し心をこめて「さよなら」と言った。

汽車の窓辺から、楽しかった三日間のようすや、お友達達の姿が頭に浮かんだ。

私が、小さい子どもたちに楽しい歌を歌いながら、微笑ってる。そんな夢さえ頭にある。

この三日間が、私の心をいっそう子どもたちに結びつけてくれた。この研修をこれからの私達の社会を明るくrippにするために、役立ててゆきたい。

この三日間が、長い長い休み中で、最も楽しく最も勉強のできた有意義な日々であった。



人はいないかとさがしていたところに、そのような人を見つけました。私は、その人を見ていると見ているだけで、こちらも、心が明るくなるような感じをうけ、それから、私も、いつも笑顔を忘れないように努めています。しかし、笑顔を忘れないということは、かたんにできるものではなく、時には腹がたち、口もききたくないようなことがあります。だから、笑顔を忘れないために大変苦労しました。しかし、こうしているうちに学校生活がだんだんおもしろくなってきました。みなさんも、一度自分の周囲をじっくり観察してみるのもためになるものです。

いくら外面ばかりに気をとられても人それぞれに性格生活態度趣味などに相違が見られます。あの人はまるで役に立たない人だと決めつけてしまうのは自分がその人の長所を、おおげさに言えば自分に必要な宝を、すててしまうことになるのです。個人的な差別を考えないことが大事ではないでしょうか。

またこんな経験があります。私は卓球部に所属していますが、体の具合が悪いため長い間休んでいました。そしてつい最近、クラブに出て見て、私にとって大変うれしいことに出会いました。長い間休んでいたのもう相手にしてもらえないのではないか、目も向けてくれな

つくしてくれている人がある事を忘れてはいけないと思います。

また、一つのグループに陰、日なたをなくするにはどうしたらよいでしょうか。それはみんなが自分の持っている能力をフルに発揮して、おのおのが自分を向上させていくのです。この事はグループ活動において大変大事な事ではないでしょうか。一つのグループの中に劣等感を持ったり自信を無くしたりする人が一人でもあれば、そのグループにはまとまりがないと言えます。なんでも前向きの姿勢を忘れない事です。グループで似た者同志が集まったと言っても別々の人間である限り能力差及性格の違いがあるのはあたりまえです。そしてそれらが原因で別れ別れになるということもないとは考えられませんが。そこでそれをなくするためには一人でも高くすばらしい目標を持つと、それに影響されて、自然と前向きの姿勢が見られるようになるのではないのでしょうか。自分が進歩し、同時にグループ全員の前進もうながす気が必要が必要です。

また、別の方向から自分にプラスの作用とマイナスの作用を身につけるには、自分達のグループだけで教室のかたすみにかたまってしまうのではなく、他のグループとも広くつき合うことが必要です。そうすれば自分達だ

いのではないかなど、いろいろ心配しながら体育館に出て行くと、みんなが笑って快よく私をむかえてくれました。その時のうれしさ、まだ手に取るように私の心に残っています。また、長い間休んでいたせいで、体の動きがにぶく、よく失敗します。それでも迷惑そうな顔一つしないで「気にせんでもいい、なれたらうまくできる」と反対にはげましてくれました。私はこの時思いました。「ああ、私はなんてバカだったんだろう。こんなすばらしい、卓球部という一つのグループの一員でありながらなぜ早くとびこんで友情をかみしめなかったのか」と、なんでも好きな事を遠慮なく言い合い、気軽に話しかけてくれるみんなの暖かい友情を感じないわけにはいきませんでした。その日、おかげで腰が痛くなりましたが、私は暖かい友情を得た喜びで、その痛みも消えてしまうようでした。

このように、クラブというグループでプラスになる点は、スポーツマンらしく、すがすがしい態度で部員一人一人が協力の精神を養うことができるのです。

それから、マイナスの点はメンバーの内にある者がそれぞれの点で劣等感をいだくことがあることです。意見をどしどし言い、はなやかな存在にある人はいつも自分の後ろに日かげになりながらも一生懸命自分達のために

け孤立してしまうことがなく、新鮮な話題を常に取り入れる事ができます。また他のグループの悩みを一諸に解決することによって自分自身ひとまわり成長する事になるのです。よく他のグループと一諸に話しをすると、自分達の考えを取られてしまうなどという考えを持つ人がいますが、こういう狭い考えを持つ人こそおおいに反省しなければならぬと思います。

以上のようにグループは自分自身を向上させるために大変役に立ちます。また、グループという一つの集団で悪の道から友を救い出す事もできるのです。なんとすばらしい事ではありませんか。

グループの中では共通の目標を決め、自分を簡単に失わず積極的に物事を行う事です。引込み思案が一番グループの利用がへたで、物事にけじめのない人は嫌われてしまいます。自由な意志で、魅力を感じてきたグループを簡単な妥協や情性に終わらせてしまうのでは、グループの真価を見つけないままにしてしまう事です。自分のグループを今一度ふり返り、このグループの中でプラス、マイナス点を見つけるのは自分次第です。自分のグループに自信を持つ事は、同時に自分がグループの中から何らかの形で何かの力を学び取っている事なのです。その学び取った物をこれからどう生かして

いかかという事によって自分自身のこれからの生活態度が決まってくるのです。

みなさん、グループという大事な存在を粗末にあつかっていませんか。そこでもう一度私達は自分達のグループをふり返りよりよいグループを作るために、一人一人が力を合わせて努力しようではありませんか。

大山登山

出発

二A 中谷 裕見恵

待ちに待った大山登山が迫った今、大きな希望のため胸がドキドキしている。今、私は、長い間あこがれていた、大山を征服できたらと思う。私の最大の願いはこれである。そして今、出発直前。……佐治中学校をあとにして、大山へ向かって出発した。すがすがしい朝、私の心もすっきりとしていた。長い間のあこがれとうれしさのため、おさえようのない気持ちだ。バスの中は思ったより楽しかった。友達と大いに話し合い、食べ合う。皆、うれしさを隠すことができないらしい。バスの中では、補助席だったけれども、まわりの景色がよくわかった。海が見えた。トンネルがあった。海も、そしてトンネルも後にして大山へ向かって前進し続けた。バスの中

で私は、これから生まれ変わるような気がした。

登山

二B 田中 好喜

ぼくは、旅館を出る時、これから大山の頂上に登るのだと思いながら集合した。集合した時先生からの注意があった。必ず最後まで登る。登る途中落石のないようそこでいよいよ登る時がやってきた。出発だ！少し歩いていくうちに登山道と書いたかんばんが木につるしてあった。あせがだらだら全体にぬりつぶされるようになった。まだまだ先は長いと自分にいきかせながら一歩、一歩、地面をふみしめる。二合目になってかんジュースの一本をあける。なんておいしいんだろう。そう思いながらぐいとのみほす。そして、三合目になった。まだ大山キャラ木は見えないのだろうかと思ひながら登る。落石があると聞いていたがこの辺にはまだ大きな石はなかった。ところが四合目、五合目、になっていくと大きな石がごろごろするようになってきた。六合目ぐらいからガスが大山をおおうようになってきた。そしてすずしくなって登りやすくなってきた。足も身軽になって気持ちがよい。七合目、八合目になってくるとけわしいところが多く、登って行く所々の木にさわってみるとつるつるしている。ここはたくさんの人々がさわって上ったり、

下ったりしたのだなと思った。そう思ううちに九合目になっていった。ここで大山見学にきてよかったと思った。あともう少しで頂上だと思ふといつもたってもいられなくなった。足のはずみも前よりもよくなった。早く登るということを一心にして歩くと大山の小屋が少し見えだした。少し歩くとはっきりと見えだした。その周辺には大山キャラ木がたくさんあった。やっと頂上についたその時、なんとも言えない、人にいえないうれしい気持ちに心がわき上った。

登山

二B 下田 智明

いよいよ登山開始だ。みんなが先生の注意を聞いたあと、二Aの男子から順に登っていった。ほとんどの人が荷物を背負って登っていたが、中には手ぶらで登っているものもあった。少しの間大山寺付近の道路を歩いて、夏山登山道入口にはいった。道は初め石段が続いていたが、しばらくするとじやり道になった。もうこの辺から少しづつ列が乱れてきた。一合目、二合目と登っているうちに、汗がいっぱい流れてきた。水筒を取り出して水を飲んでいるものもあった。途中、三合目から十分休んで、再び登っていった。木の根がはみ出しているような

曲がりくねった道を「ふう、ふう」といいながら、人を追い越したり追い越されたりしながら登った。六合目付近になると高木が少なくなってきた。ここで二度目の休憩をした。休んでいると次から次へと遅れた人が登ってきた。友達の双眼鏡を借りて八合目付近を見ると、僕たちより先に登った河原中学の生徒たちが見えた。しばらく見ていると、右手側から霧がおおって見えなくなった。六合目から少し上へ登ると、中海付近が美しく見えた。みんなが「あれが弓ヶ浜だ」「あれが島根半島だ」などと言っていた。反対方向には北壁がくっきりと見えた。いかにも大山らしいけわしい感じを受けた。八合目までくると、さっきのようなけわしさはもろろん、大山キャラボクが右側一面に姿を現わした。ここを登りきると、道幅五十～百センチメートルくらいのところへ来た。しかも左側には砂やじりの急斜面になっている。右側はキャラボクで幾分安全だったが、下を見ると今にもひきこまれそうだった。それから数分ゆるやかな斜面を歩くと頂上に到着した。男女別に記念写真をとったあと、班ごとに解散した。個人で写真をとってもらったり、走りまわって遊んでいるうちに、集合の合図がかかって下山になった。先生から「あまり走って下山しないように」との注意を聞いたあと、山をくだった。登るときには九鬼先

生が先頭になっておられたが、下りは沖野先生が先頭になって下られた。六合目まで並んで降りたが、六合目から下は上りの道とはちがった道を個人で降りた。六合目に着く途中青谷中学に追いついたので、六合目から三十分ほど青谷中学が先に降りていくのを待った。青谷中学が降りてしまうと僕はすぐ降りていった。みんなが走って降りていたので、僕もつられていつのまにか走っていた。しばらく同じような道を走って降りると、行者谷の川原が見えた。その時、後ろから「ゴロゴロ」という、石が落ちてくるような音がした。びっくりして後ろをふり向くと、二Aの儀明君があまり力いっぱい走っていたせいか、道のそれたところにこんでいた。けがはしてなかったのどほっとした。川原に降りて、みんなの降りてくるのを待った。みんなが集合すると、男女別に写真をとって旅館へ帰った。『もう一度登ってみたいなあ』と思ひながら歩いていたら、じりの上だったらしく、「ズデーン」ところんで大笑いになった。

旅館にて

二A 北尾泰司

大山から降り旅館についた。そこで班長が集められ、これから何をするかを聞いて、そのあと夕食になった。

旅館にて

二B 谷口秀範

下山して旅館についた。まず部屋に入った。早くもトレパンに着替えている者もあった、御飯を食べてそれから風呂だ。山に登ったので腹が減っていた。最初三ばいは食べるつもりだったが、二はいしか食べれなかった。御飯を食べてから風呂に入った。服を脱いで、タオルを肩にかけて戸をあけた。風呂の中でばれてる者がある。一つの旅行でもある。何故もっと静かに入浴できないのかとつくづく感じた。タオルを風呂につけている者もある、自分が一人はいるわけではないからやめたほうがいい。入浴後は自由時間だ。旅館のすぐ前の店にはいったもうゲームをしている者もいた。別にこれといった土産物もなかったの、ジュークボックスの前にいったみた。かなりいい曲があった。聞こうと思って待っていたけれどもなかなか終わらない。頭にきたから下の方へ行ってみた。けれどもやはりこれといったものはなかった。結局土産は全然買わなかった。

帰って来たら今度はフォークダンスだ。考えただけでもげっそりしてしまう。とくにステップを忘れてい

いよいよ寝られる、と思ったがともうさくて寝る

夕食は飯を五はいも食べた人がいた。そのあと入浴して自由時間になった。自由時間には班で行動することになっていた。

ぼくの班はまず、前にある店へ行って、五百円の小使で何を買おうかと思案したが、結局買ったものは、絵はがきだけだった。そのあとこの辺の店を回ったが、ほとんど何も買わなかった。旅館へ帰りフォークダンスをするようになっていたのでその準備をした。男の中には、「フォークダンスちゃんあせんで」とか言っている人もいた。それには、オクラホマミクスと、コロブチカを踊ったが、いやだといっていた人も、けっこう楽しそうに踊っていた。九時三十分寝るようになった。ぼく達の部屋も、始めはうるさかったが、三十分ぐらいうると、全員が静かになった。しかし、他の二部屋はまだうるさく言っていたようであった。特にぼく達の隣の部屋はうるさかった。ふすまをはずしたり、話し声がよく聞こえた。十一時頃、がまんできなくなって、ぼくと広行君とで先生に注意してもらおうように、頼みにいった。先生が注意されると、またたくまに静かになった。そのあとの記憶は朝までないが、一晚中静かであったようだ。朝、六時四十五分に起床し、朝食をとった。そのあと、荷物をまとめて、豪円山へ向けて出発した。

どこではない。それで僕も一諸になってばれていた。他の部屋の者が来た。話をしてすぐ帰える者もいたが、中にはずうずうしく布団の中に入ってくる者もいた。真面目にトレパンをはいている者がほとんどだったが、僕はパンツ一丁で寝た。部屋の中はうるさかった。それから大分たった頃、隣の部屋が急に静かになった。先生がこられて、ばれていた者は皆立たされたようだ。僕達の部屋は静かになった。やっと落着いて寝られた。

豪円山

二B 竹本康宏

道路を歩いて行くとやがて石の多い坂道になり十分ほど登ると来年行なわれる国体の会場が見えだしました。中ノ原スキー場の九十メートル級のジャンプ台を見てこんな急な所をよくおる気になるなあと思いました。やがて頂上についてスキー場側には、大山の北かべが美しい岩はだを見せていました。その大山の上には、こいガスが見えていました。ぼくはこんなけわしい所によく登ったなあと感心しました。その反対側にはかすんで、弓ヶ浜半島と島根半島・中海そして中海の中の大根島が見えました。またもう一度豪円山と大山に登りたいと思いました。おりがけの中ノ原はなんだか恩原の景色に大変よくていました。

編集後記

二月もおしこまて、入試や期末試験の準備も忙しいなか「山峡の子」第二十一号の編集を終えました。生徒全員の作品を載せるという目標に基づいて編集したが、投稿しても載せられなかった作品もあり投稿者の方々に申しわけないと思っています。

国語の教科書に、こんな一節がありました。「日本人は、たとえば西洋人に比べて、物事をより多く『変化』の相においてとらえることの好きな民族である」また「日本人は西洋人よりも変化に対して敏感なのである」僕たちは日本人は、この榮譽な心をいつでも心にいたきこのすばらしい心で物を見、考え、そしてその時の心をすなおに手に命令すれば文はできるのです。けれど、嘘いつわりの心を命令してはなりません。

僕たちには記録したいという衝動があります。カメラやテープレコーダーなどがそれです。けれど、もっと安易に、手軽に「文」は書けるのです。紙の切れっぱしに自分の心を表現する。その記録は、写真にもカセットテープにも劣らない、りっぱなものなのです。でも前段で述べたように、偽造の記録書ではいけません。そして、その記録を大きくしてから読み返しましょう。そうし

て、写真などより克明に記録されている過去の自分を、第三者的な立場から見つめるのです。そのために、僕はこの生徒文集である「山峡の子」を、生徒全員の心の広場として発展させていきたいと願うのです。最後に、編集にあたって、諸先生の絶大な援助があったことを感謝してペンを置きます。(倉元秀樹)

文化委員

倉元秀樹

谷上智子

藤原順一郎

森田智子

上紙 誠

西村智昭

下田浩二

田中幸子

中谷善孝

中尾万里子

坂本須美雄

中谷幸恵

顧問

西尾広祐

勝利の歌 (応援歌)

- 一 燦たる栄冠我に輝き
歌え若人勝利の歌を
熱き血潮に燃ゆる若人
勝ちたり今ぞ今ぞ勝ちたり
- 二 我ら称えん勝利の時を
聞け高らかに歌う凱歌を
月の冠は我らの頭上に
勝ちたり今ぞ 今ぞ勝ちたり

熱血燃ゆる (応援歌)

- 一 熱血燃ゆる 我が選手
汗と涙の 結晶を
示さん時は 今なるぞ
母校の榮譽を 双肩に
力の限り いざ競え
- 二 精気あふるる 我が選手
今日のある日を胸に秘め
あまたの試練を堪え忍び
鍛えに鍛えし力技
燃ゆる若さでいざ競え
- 三 黒金のごと我が選手
正義を愛し遵法の
スポーツマンシップの体现者
これぞ栄えある我がホープ
力と技をいざ競え

佐治健児の歌 (応援歌)

- 一 三国おろしが吹きなびく
背には中国山脈を
眼下に清き佐治の友
流れに育つ佐治の友
いざ奮い立て佐治健児
- 二 朝に夕べに仰ぎみる
高き希望の峰々が
我らを強くさとすなり
励みすすまん佐治の友
いざ奮い立て佐治健児
- 三 高嶺の百合の美しく
その香満ちたる佐治川は
我々乙女の誇りなり
気高く咲けよ佐治の友
いざ奮い立て佐治健児

日頃鍛えし (応援歌)

- 一 日頃鍛えし健脚を
試すは今日の今なるぞ
勝つかぶとの緒をしめて
奮えふるえ
あなうれし 喜ばし戦い勝ちぬ
あなうれし 喜ばし戦い勝ちぬ
実力ついに成功し
予期の大勝 あなうれし
佐治中健児の生粋は
それここにありこを見よや
その名も高き佐治中は
威風堂々あたりをなぎたおし
それがんばれ佐治勝てよ
それがんばれ佐治中よ

山峡の子 第21号

昭和四十七年三月十五日 印刷
昭和四十七年三月十五日 発行

編集

八頭郡佐治中学校

発行所

生徒会文化委員会

印刷所

八頭郡佐治中学校
生徒会文化委員会
智頭 加藤印刷

電話チズ五〇七五六